

南スーダン派遣施設隊日報にかかる経緯

2016年

- 10月 3日 「南スーダン派遣施設隊が現地時間で2016年7月7日から12日までに作成した日報」について開示請求
- 12月 2日 上記開示請求について、不開示決定
- 12月16日 大臣説明、探索するよう指示
- 12月26日 資料発見

2017年

- 1月27日 大臣に日報の存在及び議員への提出について報告
- 2月 7日 防衛記者会に日報及び中央即応集団司令部資料を提出

防衛大臣報告資料と部隊日報の比較

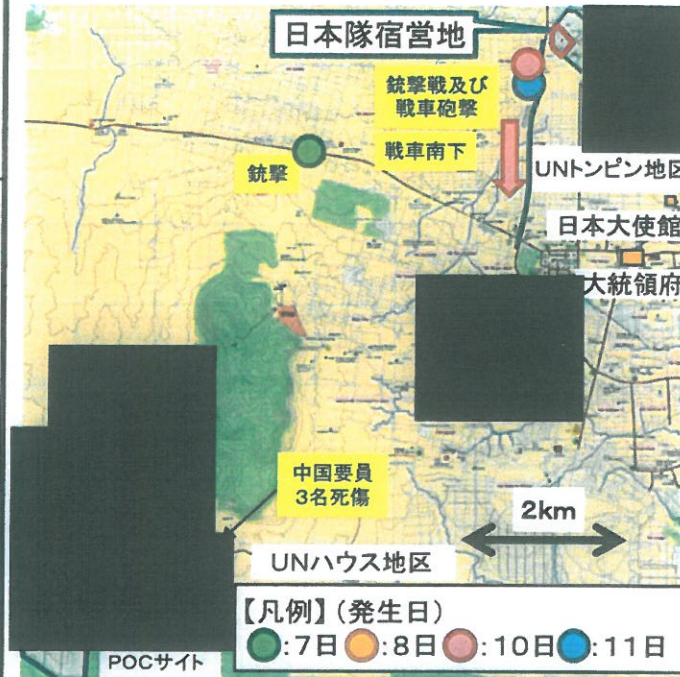
	大臣報告資料	部隊日報
7月7日の事象	・政府軍と元反政府勢力の 衝突 事案	・グデレ地区でSPLAとioの銃撃が発生
7月8日の事象	・激しい爆発音	・ジュバで 戦闘 、ジュバ市内の 戦闘 に関する状況 ・ジュバにおいてSPLAとSPLA-iOとの間で 戦闘 ・ジュバにおいてSPLAとSPLA-iOによる 衝突 が生起 ・大統領府近傍で始まった射撃が、徐々にジュバ市南西方向(UNハウス方向)へ拡大していった模様 ・両指導者が 衝突 の回避を働きかけたものの、抗争は抑制されておらず
7月9日の事象	・散発的な銃声	・ジュバ市内の 戦闘 に関する状況 ・宿营地南東方向で射撃音が観測され、以降散発的な射撃音が観測
7月10日の事象	・UNハウス地区付近で大規模な政府軍と元反政府勢力の 衝突 事案 ・日本隊宿营地南西で激しい銃撃戦、流れ弾が宿营地にも飛来した模様 ・銃撃戦及び戦車砲撃、戦車南下	・ジュバ市内の 戦闘 に関する状況、 戦闘 の生起 ・宿营地南側トルコビル周辺でSPLAとSPLA-iOとの銃撃戦が発生 ・トンピン地区及びUNハウス近傍における 戦闘 は継続
7月11日の事象	・UNハウス地区付近及びUNトンピン地区付近で大規模な政府軍と元反政府勢力の 衝突 事案 〔11日夜、キール大統領、マシヤール第1副大統領(当時)は、政府軍又は元反政府勢力のそれぞれに停戦命令〕	・ジュバ市内の 戦闘 に関する状況、 戦闘 の生起 ・ビルファムストリート沿いを中心にUNトンピン周辺、ジョン・ギャラン霊廟乃地区一帯において 戦闘 が生起 ・激しい銃撃戦、砲弾落下 ・SPLA-iO側については、統制がとれないことから、断続的な 戦闘 は継続する物と思料 ・マシヤール副大統領は・・・自衛のため以外の 戦闘 は禁止している模様。また・・・今回のジュバでの 戦闘 に関して大統領側が平和を脅かしたとして非難している模様
7月12日の事象	・朝から13日朝まで射撃音未確認	・ジュバ市内の 戦闘 に関する状況 ・宿营地近傍での 戦闘 は生起していない ・今後もUN施設近辺で偶発的に 戦闘 が生起する可能性があり ・ 戦闘 は生起していないものの散発的なMG射撃音
7月13日の事象	・朝、散発的な射撃音を確認したものの、比較的平穏 ・事後射撃音なし	
その他		・ジュバにおけるSPLAとSPLA-iO間の 戦闘 により、双方合わせて約150名の死傷者が発生している模様 ・ジュバにおけるSPLAとSPLA-iOとの間で 戦闘 により、SPLA約90名、SPLA-iO約37名、民間人約25名が死亡した模様 ・国連安保理は今回の 戦闘 の責任者を裁くよう主張、今 戦闘 に対する国際社会からの評価及び対処は厳しいものになっている ・ジュバ市外においては、停戦合意は履行されているものの、偶発的な 戦闘 の可能性は否定できず、巻き込まれに注意が必要 ・ジュバ 戦闘



政府側と元反政府側との衝突事案

概要	
事案の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月7日、ジュバ市内で政府側(SPLA)と元反政府側(iO)の発砲事案が発生。その後、銃撃戦等に発展 ○ 7月11日、ジュバ市内で大規模な政府側と元反政府側の衝突事案が発生
南スーダン政府の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月11日、キール大統領及びマシャール第1副大統領は、政府側及び反政府側のそれぞれに敵対行為の停止を命令 ○ キール大統領は、マシャール氏(注:所在不明)に対し、直接対話を要求したが、安全が保証されないとして拒否 → マシャール第1副大統領を罷免し、タバン氏を第1副大統領に任命(7月25日)
各国の状況	各国は軍用機及びチャーター機を使用し、自国民を国外避難
国連の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ [Redacted] ○ [Redacted] ○ 国連宿営地等に避難民を受入れ、支援を実施
施設隊の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ UNMISS司令部の要請を受け、避難民支援を実施 ○ 国連宿営地の [Redacted] のための施設作業等を実施 ○ [Redacted] 司令部要員4名(7月14日~8月1日)の日本隊宿営地受入れ
邦人の状況等	<ul style="list-style-type: none"> ○ JICAチャーター便により、在留邦人等約90名が出国 ○ C-130Hにより、大使館職員4名をジブチに輸送(在外邦人等輸送)

【ジュバ市内の衝突事案の概要】



3

統合幕僚長会見（平成 29 年 2 月 9 日 1430～1450）

Q： 今後はそういった今回起きたような混乱を防ぐために、戦闘という言葉は日報やモーニングレポートでは大規模衝突などに置き換えるというご認識でよろしいでしょうか。

A： 今回のような事案が起きまして、混乱を来たす可能性がありますので、そこはそのように指導を致しました。

Q： 今後は法的意味も含めた戦闘という言葉になるということですか。

A： 今後、そういう言葉が出てきた場合、そういうことになると思います。